

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 4 号）の送付について

このことについて、下記のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしく願います。本虫は、中国原産の侵入害虫で全国に分布を広げています。他県では排せつ物にかびが生えるすす病が確認されているため、今後の発生に注意してください。

記

1 情報の内容 **チュウゴクアミガサハゴロモの発生について**

2 発生経過及び状況

令和 7 年 7 月内子町のナシ、ユズにおいて、茶褐色のハゴロモ類成虫が多数確認され、愛媛県果樹研究センターに持ち込んだところチュウゴクアミガサハゴロモと同定された。寄生枝率はナシで 1 %、ユズで 10 %であったが、実害を生じている状況ではなかった。

3 国内での発生状況

平成 29 年大阪府で国内初確認。13 都府県から特殊報が、2 県から技術情報が発表されている（8 月 26 日現在）。

4 形態の特徴と発生生態

- (1) 成虫は翅端までの体長が 14mm 程度、前翅は茶褐色から鉄さび色、前翅前縁部中央に半円形の白斑を有する(写真 1)。
- (2) 幼虫は白色、放射状に白いロウ物質を纏う(写真 2)。
- (3) 卵は枝の内部に産卵され、白いロウ物質で覆われる(写真 3)。
- (4) 広食性で、ミカン科、バラ科、ヒノキ科、ブナ科、マメ科、ミズキ科、モクセイ科、モチノキ科、フトモモ科、カキノキ科、カバノキ科、クワ科、ツツジ科、ニシキキ科等多くの樹種に寄生することが知られ、国内の作物では、カンキツ、カキ、ナシ、モモ、ブドウ、ブルーベリー、イチジク、リンゴ、茶、宿根アスター等での報告があるが、生態は不明な点が多い。

5 被害

成虫、幼虫とも枝に寄生、吸汁加害し、多発時には、すす病を発症する事例が他県で確認されている。また、成虫は枝内部に産卵するため、枝の損傷による被害を生じる場合がある。

6 防除上の注意

- (1) 令和 7 年 7 月 31 日現在、エルサン乳剤が桑のハゴロモ類、アプロード水和剤が桑のハゴロモ類幼虫に適用がある他は、本種を対象として使用できる薬剤はない。
- (2) 産卵痕のある枝を除去、園外に持ち出し埋却するなど適正に処分する。



写真1 チュウゴクアミガサハゴロモ成虫



写真2 幼虫と脱皮殻



写真3 成虫と産卵痕

(参考)

果樹研究センターにおいて、採取した成虫の薬剤感受性を確認したところ、ダントツ水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、アークリン水和剤、テルスター水和剤への感受性が高かった。